

肝細胞癌の conventional transcatheter arterial chemoembolization (TACE)と
drug-eluting beads TACE (DEB-TACE)における vascular lake phenomenon
(VLP)に関する研究

1. 研究の対象

2014年1月1日から2022年12月31日までに当院で肝細胞癌と診断され経動脈的化学塞栓術 (transarterial chemoembolization: TACE) を受けた患者様

2. 研究目的・方法

経動脈的化学塞栓術 (transarterial chemoembolization: TACE) は、肝細胞癌 (Hepatocellular carcinoma: HCC) の患者に対する標準治療として行われています。従来、経動脈的化学塞栓術 (conventional TACE: cTACE) が行われていましたが近年 drug-eluting bead TACE (DEB-TACE) が提案されました。DEB-TACE では、ビーズが長期にわたって持続的に腫瘍に薬物を放出できるという理論的根拠に基づいています。一方 DEB-TACE 中、造影剤の局所的な血液プールが時折観察され、vascular lake phenomenon (VLP) として知られています。VLP が発生した場合は塞栓術の追加が必要となるため、塞栓術の追加による塞栓後症候群が発生することが問題です。このように DEB-TACE における VLP の発生は大きな問題ですが、VLP がどのような肝細胞癌の治療中に発生しやすいかは報告が少なく原因は依然として不明です。本研究は、当院にて cTACE と DEB-TACE を行った HCC の患者様における VLP の発生率と予測因子を後ろ向きに調査し、VLP の危険因子を明らかにすることを目的とします。当院にて 2014 年以降 HCC の治療として cTACE と DEB-TACE を行った患者様を収集し、Digital Subtraction Angiography (DSA) にて VLP の有無を確認し VLP の発生率を求め、患者背景、血液検査所見、背景肝、CT、MR 画像による標的 HCC の大きさ、抗がん剤の種類、ビーズの粒径などを血管撮影レポートから抽出し、VLP の発生に関連のある因子を明らかにします。

研究実施期間：研究実施許可日～2028年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 1) 患者基本情報：年齢、性別等
- 2) 血液検査 (Child-Pugh score, BCLC staging, C 型肝炎/B 型肝炎/アルコール性、等)
- 3) TACE 術前の CT または MRI 画像 (腫瘍数、体積、被膜の有無) 等
- 4) 抗がん剤の種類 (アイエーコール or エピルビシン)、ビーズの種類 (DC-BEAD 100-300 μ m or Hepasphere 50-100 μ m) 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

森 菜緒子

秋田大学大学院医学系研究科

放射線医学講座

〒010-8543 秋田県秋田市本道1丁目1-1

Tel: 018-884-6179

Fax: 018-836-2623

E-mail: nmori@med.akita-u.ac.jp

研究責任者：森 菜緒子

秋田大学大学院医学系研究科

放射線医学講座

〒010-8543 秋田県秋田市本道1丁目1-1

Tel: 018-884-6179

Fax: 018-836-2623

E-mail: nmori@med.akita-u.ac.jp

-----以上